

平成 23 年度予算概要説明

資金収支予算について

1. 資金収入の概要

(1) 学生生徒等納付金収入の前年度予算比 5.6% 増は、

学生数 4,237 名（前年 10 月末比+129 名）、学部新入生 1,060 名（入学定員比 1.23 倍）の予測値を基に、平成 22 年度からの
授業料の改定（新入生 69 万円→平均 70 万 7,600 円）
入学金の改定（新入生 20 万円→18 万円）
施設設備費の改定（新入生 18 万円→20 万円）
の効果によるものである。

(2) 手数料収入の前年度予算比 17.5% 増は、

入学検定料収入が主なもので、学科新設の効果が期待されることから、22 年度比 18.2% 増とした。

(3) 寄付金収入の前年度予算比 16.7% の増は、

| | |
|--|----------------|
| 特別寄付金にて、設立 3 宗団からの 80 周年記念事業費 | 3,000 万円 |
| 父母会 | 1,730 万円 |
| 東北関東大震災学生支援 | 5,000 万円 |
| 90 周年記念事業勧募は、当初 6 億円を見込んだが、東北関東大震災の影響に鑑み | 3 億円 |
| 一般寄付金にて、設立 4 宗団からの経常費 | 1 億 7,000 万円 |
| 新入生寄付金 | 2,000 万円 |
| その他の寄付金にて、ティー・マップから前年度比 2,000 万円増の | 1 億円 |
| | 計／6 億 8,730 万円 |

が主なものである。

加えて、平成 22 年度より鴨台会（同窓会）が保有する基金 6 億円を、満期到来毎に大学に寄託することとなり、会計上寄付金として計上することとなったが、今年度は 1 億円である。

ただし、この基金は引当特定資産（固定資産）とし、大学の経常的な運営経費としては使用しないものとする。

以上、7 億 8,730 万円が主なものである。

(4) 補助金収入の前年度予算比 21.6% 増は、

ネットワーク機器更新 8,500 万円等及び東北関東大震災罹災学生への授業料減免支援に対する特別補助金の増が見込まれており、平成 22 年度予算比 9,420 万円増にて計上了るものである。

(5) 資産運用収入の前年度予算比 22.9% 減は、

社債長期金利の低下、運用額の減少（大学整備費▲8億円）によるものである。

(6) 事業収入は、前年度予算比ほぼ同額であり、出版会の書籍売上が主なものである。

(7) 雑収入の前年度予算比67.9%減は、

私立大学退職金財団からの交付金減が主なもので、退職者の減（教員14名→5名、職員4名→2名）によるものである。

(8) 前受金収入は、前年度予算比同額とした。

(9) その他の収入は、退職金、施設設備費等の支払資金あるいは社債等の運用に係わる資金を、各々の特定預金から振替入金するものである。

前年度予算比純増となるのは、大学整備引当特定資産からの8億円が主なものである。

(10) 資金収入調整勘定は、各収入科目のうち本年度において資金の受入れがないことを示す控除調整科目である。

このようにして、前年度繰越支払資金を加えた資金収入の部合計は、130億3,338万1,003円となり前年度比14億9,140万121円増(+12.9%)となった。

2. 資金支出の概要

(1) 人件費支出は、前年度予算比4.0%の減である。

これは退職金支払の減によるもので、ちなみに平成23年度から向こう4ヶ年の退職金の支出額は平均7,000万円と低位、安定的に推移する予定である。

教員人件費の約4,789万円増は、表現学部及び学科の増設に伴う教員の採用によるものである。

(2) 教育研究経費支出は、前年度予算比4.9%減である。

(イ) 奨学費の1億1,210万円増は、東北関東大震災罹災学生の授業料減免が主なものである。

(ロ) 修繕費の2,844万円減は、前年度の野球場整備、落雷被害回復修理が終了したことによるものである。

(ハ) 実験実習料1,866万円増は、海外語学研修にて、北京大学、UBC大学の復活が主なものである。

(ニ) 賃借料の1,449万円減は、

ネットワーク機器の更新にあたり特別補助金対象となる為、リースから買取としたことによるものである。

(ホ) 委託費の1億6,213万円減は、

前年度の3号館、弓道場、道心寮、L教室の取壊しの委託が終了したことによるものである。

(3) 管理経費は、前年度予算比2.8%増である。

各部署の、経費見直しにより各科目において、微増あるいは減少とすることが出来た。

増加科目については、いずれも経営戦略上必須のもので、

- (イ) 印刷製本費 606 万円増は、学内外への情報発信にフジサンケイビジネスアイ記事広告（2万部）及び T S R 報告書（5千部）が主なものである。
- (ロ) 広告費 1,195 万円増は、受験生確保の為の広宣関係が主なものである。
- (ハ) 雑費 1,000 万円増は、T S R 推進に係る経費が主なものである。

(4) 施設関係支出は、総額で約 28 億 3,941 万 200 円となる。

(イ) 建設仮勘定支出 28 億 3,735 万円は、

| | |
|-------------------------|--------------|
| 3号館建築費（含設計料） | 18億 6,866 万円 |
| 〃 A V 設備 | 6,000 万円 |
| 〃 P C 教室設備 | 3,885 万円 |
| 〃 L A N 、電話工事他 | 3,958 万円 |
| 〃 スタジオ機器他 | 4億 1,339 万円 |
| 〃 増設書庫、書架 | 1億 900 万円 |
| 〃 表現文化M a c 買取 | 5,000 万円 |
| 宗教施設新築工事 | 1 億円 |
| 野球部宿泊施設 | 5,000 万円 |
| ランドスケープ工事 | 3,000 万円 |
| 建築予備費 | 5,000 万円 |
| /計 28 億 948 万円が主なものである。 | |

(ロ) 設備関係支出のうち教育研究用機器備品 2 億 1,707 万円は、ネットワーク機器の更新 8,500 万円が主なものである。

(5) 資産運用支出は、退職金等の支払資金の振替入金、各引当特定預金・資産への積上げ、運用が主なものである。

| | |
|-----------------------|----------------|
| 純積上げは、第 3 号基本金引当特定預金に | 2,000 万円 |
| 鴨台会基金引当特定資産に、 | 1 億円（23 年度寄付分） |

のみである。

以上、その他の支出、資金支出調整勘定を加減後の次年度繰越支払資金（手持現預金）は、3 億 99 万 6,871 円にて、前年度予算比 11 億 156 万 4,132 円減となる。

消費収支予算について

消費収支計算書は、当該会計年度における消費収支の均衡状態とその内容を明らかにし、学校法人の経営状態が健全であるかどうかを示すもので、計算目的に違いはあるが、いわば企業会計の損益計算書に当るものである。

1. 消費収入の概要

帰属収入（学校法人の負債とならない収入）のうち、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用、事業及び雑収入の予算額は、資金収入予算額と同額である。

（但し、鴨台会よりの寄託金＝寄付金 1 億円は経常的資金としない為、これを調整する）各科目の帰属収入に対する割合は、次の通りである。

（ ）は、鴨台会寄付金調整後

学生生徒等納付金 71.5% (72.7%) • 手数料 2.6% (2.7%) • 寄付金 14.7% (14.9%)
補助金 9.4% (9.5%) • 資産運用 0.6% (0.6%) • 事業収入 0.1% (0.1%) • 雜収入
1.2% (1.2%)

帰属収入の合計は、56 億 6,112 万 6,000 円で、前年度予算比 5.7% 増となる。

従って、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入の合計は 26 億 6,363 万 7,396 円となり、前年度予算比 32.8% 減となる。

2. 消費支出の概要

人件費は、26 億 1,876 万 3,490 円で帰属収入比 46.3% となる。

教育研究経費は、16 億 2,789 万 9,591 円で帰属収入比 28.8% となる。

管理経費は、6 億 7,894 万 7,447 円で帰属収入比 12.0% となる。

3. 消費収支差額

以上の通り、消費収入総額 26 億 6,363 万 7,396 円に対し消費支出総額は 50 億 5,461 万 528 円であり、従って平成 23 年度消費収支差額として 23 億 9,097 万 3,132 円の消費支出超過となる。

4. 帰属収支差額および手元資金増減について

帰属収支差額は、一般企業の損益計算書にあたるもので、

（イ） 収支差額

帰属収入 56 億 6,112 万 6,000 円 - 消費支出 50 億 5,461 万 528 円
= 黒字 6 億 651 万 5,472 円

（ロ） 手元資金増減

6 億 651 万 5,472 円 + 減価償却 4 億 5,000 万円 + 固定資産除却 7,900 万円
- 鴨台会 1 億円 = 10 億 3,551 万 5,472 円

以 上